

佐渡の貴重な植物群落 18

西山田萩田のヒノキアスナロ林

— 樹齢 100 年のアテビの植栽美林 —

県自然環境保全審議委員会専門調査員 伊藤 邦 男
日本自然保護協会自然観察指導員 中 川 清太郎

I. 佐渡のアテビ

ヒノキはわが国の最高の建築用材で木目が美しく香りがある。アテビ(ヒノキアスナロの佐渡放言)も木目美しく香気があり、水に耐えることヒノキ(檜)に勝り、ヒノキ(檜)に当てるとすればこのアテビ(当檜)において他にない。佐渡放言アテビは当檜の意味でヒノキ(檜)にアテ(当)てもよい意味である。

佐渡のアテビの正しい名(標準和名)はヒノキアスナロである。ヒノキアスナロ属に分類されるアスナロには、南方型アスナロと、北方型のアスナロがあり、佐渡でアテビといわれるものはアスナロ(母種)の変種のヒノキアスナロを指す。

佐渡のアテビ(ヒノキアスナロ)について『世界の植物』(1977)には「ヒノキアスナロは北海道の渡島半島(北限・北緯42度10分)から関東地方の北部(南限は日光のほくい36度47分)に分布し、「北海道の江差地方、青森県の下北、津軽両半島、岩手県の早池峰山、佐渡などには特に多い」とされる。

アスナロの名の由来については、中村浩は『植物名の由来』(1980)に、平安時代には「アスハヒノキ」と呼ばれ、「アスナロウ」をへて「アスナロ」になったとする。アスヒはヒノキに大変似ていて、その差は一夜の差。明日になればヒノキになる位である。それ故に 明日(アス)はヒノキになろう(ナロ)から和名アスナロが由来した。

ヒノキアスナロとアスナロは実(毬果)につく鱗片によって区別する。アスナロは鱗片の先はつきだしそとへ反り返る。ヒノキアスナロは鱗片の先が外へ突き出さないで、毬果にほぼ球形である。

名 称	……西山田・萩田のヒノキアスナロ林
指 定	……県指定(1997)の重要(特定)植物群落(候補)
所 在 地	……佐和田町西山田字焼山1218(海拔80m)
所 有 地	……萩田(屋号)萩田イマ
内 容	……ヒノキアスナロの植栽林(1.038ha)
樹 高	……22.7m(最大木)
幹 周	……1.61m(最大木)・調査区外に3.17mの巨木あり

II. 西山田の萩田のアテビ林

佐渡のアテビの産地は、「海府アテビ」と呼ばれるように、大佐渡山地の海府側の山地、海府側でも金北山より北側のもの、安心して買えるのは石花(いしげ 相川町)より北側のもの。相川町よりのものは悪くなると、業者はいう。自然木は檀特山(だんとくせん)のものが最高だという。

大佐渡山地の東北部の海府斜面は、天然スギの山地。その天然スギ域に、モザイク状にアスナロ林が分布生育する。

大きく言えば、佐渡は天然スギの風土、天然アテビ林より天然スギが大きく風土を占拠しているとされたが、この常識を打ち破るのが、この「西山田の萩田のアテビ林」である。このアテビ林は天然林でない。大佐渡山地の山麓、海拔80mの地の面積およそ1haのアテビ植栽林である。

樹高22m余。幹周1~1.5mのアテビが林立し、海府アテビ天然林をはるかにしのぐ一大美林である。

III. 植 生

(1) ヒノキアスナロ林(アテビ林)

階 層	優 占 種	樹 高	植 被 率	幹 周	出 現 種 数
B ₁ 高 木 層	ヒノキアスナロ	22.7m	95%	74 - 161cm	1種
B ₂ 亜 高 木 層	シロダモ	5 - 12m	5%	0.3m	2種
S 低 木 層	シロダモ	1 - 5m	15%	0.1m	27種
K 草 本 層	ヤブコウジ	1m以下	70%		49種
環 境	海拔80m. 方位ESE. 調査面積 15 × 10 m ²	傾斜 10° <	調査年 1997 - 5 - 24	地形 段丘 調査者	伊藤邦男・中川浩太郎

(2) ヒノキアスナロ林の組成

B₁ ヒノキアスナロ 5・5 (被度 5・群度 5 の意味)

B₂ シロダモ 1・2 イタビカズラ (着生高 5~8m) +

S シロダモ 2・2 ヒサカキ+ ニガキ+ ムラサキシキブ+ エゾユズリハ+ ハナイカダ+ ヤマウルシ+ アカガシ+ ツルグミ+ サルトリイバラ+ ヒメアオキ+ サンショウ+ クリ+ ツノハシバミ+ ホオノキ+ ハリギリ+ クサギ+ ヤマグワ+ ケヤキ+ ヤブツバキ+ タブ+ コシアブラ+ イタビカズラ (着生) + ウワミズザクラ+ オオバクロモジ+ キズタ (着生) + タラノキ+

K ヤブコウジ 2・2 ヒメアオキ 1・2 ミゾシダ 1・2 ヤマウルシ+ ナンテン+ ヒサカキ+ 2 エノキ+ モミジイチゴ+ ツルアリドオシ+ ツタウルシ+ ナガバジャノヒゲ+ ツルマサキ+ ナガバハエドクソウ+ デワノタツナミソウ+ ウド+ ミツバアケビ+ オオタチツボスミレ+ ヤマシロギク+ コカモメヅル+ ハリギリ+ オオバクロモジ+ アカガシ+ ハイヌツゲ (ビンカカ) + サルトリイバラ+ ヤツデ+ ベニシダ+ ハイヌガヤ (ヒョウビ) + オオカメノキ+ ドクダミ+ ホウチャクソウ+ ナツエビネ+ トコロ+ マツブサ+ オクマワラビ+ ヤブツバキ+ キッコウハグマ+ ヒノキアスナロ+ ムラサキハナニガナ+ ヘクソカズラ+ アカメガシワ+ アカガシ+ シオデ+ キンミズヒキ+ ヤツデ+ クサギ+ アラゲヒョウタンボク+ サンショウ+ ミヤマナルコユリ+

(3) 林縁植生

ヒノキ (植栽品) ウリハダカエデ、アオダモ、トリガタハンショウヅル、コナラ、ミツバアケビ、コメガヤ、ノブドウ、ツノハシバミ、クサギ、チヂミザサ、アカガシ、ハエドクソウ、オトコエシ、シロダモ、シシガシラ、エノキ、ツリガネニンジン、サンカズル、ハリギリ、ヤマハギ。カスミザクラ、カマツカ、コマユミ、ガマズミ、ホクロクトウヒレン、センニンソウ、ヤブツバキ、ホオノキ

IV. 植物相

(1) 暖地 (南方) 要素の植物

アカガシ、タブ、ヤブツバキ、シロダモ、イタビカズラ、キツタ、ツルマサキ、ヤツデ、ヒメアオキ、ヒサカキ、ベニシダ、ツルグミ、ナンテン、ヤブコウジ

(2) 雪国 (日本海) 要素の植物

ハイヌツゲ、ハイヌガヤ、オオバクロモジ、エゾユズリハ、オオタチツボスミレ、デワノタツナミソウ

(3) コナラ (温帯林・里山) 要素の植物

ツノハシバミ、ヤマハギ、コマユミ、ガマズミ、コナラ、ムラサキシキブ、クサギ、オオカメノキ、カスミザクラ、ホオノキ、カマツカ、アオダモ

(4) 林縁マンド群落 (中低木・つる植物)

ヤマウルシ、サルトリイバラ、モミジイチゴ、ツタウルシ、ミツバアケビ、コカモメヅル、トコロ、マツブサ、ヘクソカズラ、アカメガシワ、シオデ、センニンソウ、サンカズル、ノブドウ、トリガタハンショウヅル

V. 萩田のヒノキアスナロ林

「萩田のヒノキアスナロ林」は大佐渡の国仲側の国仲段丘面、海拔 80m に成立したヒノキアスナロの一大美林である。林分の面積はおよそ 1 ha、樹幹は 100 年以上と推定される。この林は天然林でなく西山田のハギタ (屋号) 萩田の先代によって植栽された林であるが、大佐渡山地の東北部の海府斜面の天然ヒノキアスナロ林に比して、その規模、林相ともにすぐれた現在の佐渡島唯一の一大美林である。

高木層は樹高 22、7m のヒノキアスナロが優先する純林である。調査区 (10 × 15 m²) 内のヒノキアスナロの幹周 (地上高 1.3m) での幹周の測定値は次の如し (単位は cm)。

① 161 ② 161 ③ 137 ④ 135 ⑤ 101 ⑥ 122 ⑦ 95 ⑧ 92 ⑨ 79 ⑩ 74

10本の計測地によれば幹周は 74~161。平均幹周は 115cm (調査区以外に 317・221・216・200cm の大径木あり)。



写真1 佐和田町西山田 荻田家のアテビ林 (植栽林)

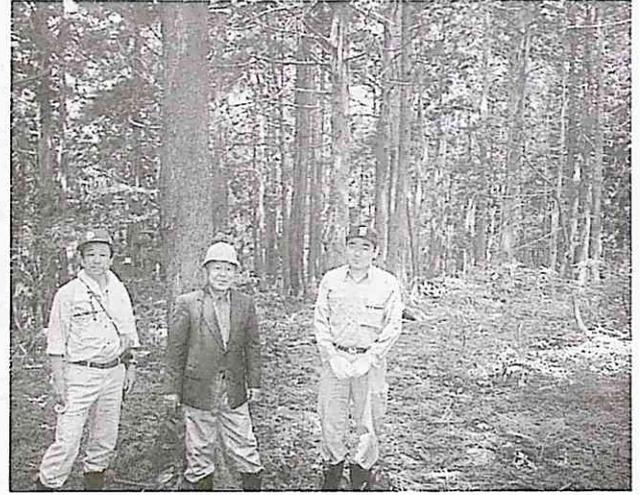


写真2 相川町大倉 新潟大学演習林アテビ林 (天然林)

(I) 樹高20m余、幹周70~160cm余のヒノキアスナロの大木の林立するみごとな純林である。

択伐(たくばつ・生長量に見合う木を択んで伐採し、林の更新をはかること)は目的に合う立木のみと制限した林であろう。林学上も貴重な林である。

(II) 暖帯気候区のアカガシ林域に成立したアテビ林である。この林のふちにはアカガシの大木が生育している。その幹周は2mをこす大径木である。地上高1.3mの幹周が228cmのものもあり、5~6本のアカガシ大径木がみられた。

このヒノキアスナロ林の原植生はアカガシ林である。高木層はアカガシ、亜高木層はヤブツバキ、林床はヒメアオキ、ヒサカキ、ヤブコウジ、暖地の常緑つる植物のツルグミ、イタビカズラ、キツタの生育する林であった。その証となるのは、この林の林床にみられる多くの暖地要素の植物の生育である。

国仲平野をかこむ国仲段丘の原植生は海岸より内陸に向かってタブ林→シイ林→カシ林と分布するが、このアテビ林は、カシ林域に成立、植栽された林。暖帯気候区のヒノキアスナロ林としてみごとに育成された林である。

(3) 林内にはコナラ林要素及び雪国要素の植物が生育する。

雪国の山地に特有に分布する雪国要素。ハイヌツゲ、ハイヌガヤなどの雪厚に適応した常緑の雪国低木や、エゾユズリハ、オオタチツボスミレなどの雪国の美花もみられる。

この林の上限は山麓のコナラ林に接するが、コナラ林要素、すなわち温帯林の里山要素のガマズミ、カマツカ、アオダモ、コマユミ、カスミザクラなども生育する。

VI. 佐渡のアテビ林は、県指定の重要植物群落

金井町千種の材木商の笠井忠さん(大正9年生まれ)によれば「佐渡のアテビは最高材とされているのは確か。しかし新潟では知られない。それは越後にほとんどアテビがないからだ」という。

『新潟県の植物分布図集』(7集・1988)によれば佐渡では大佐渡山地にはその分布が多くプロットされているが、越後の山ではただ1箇所「東蒲原郡上川村茗荷袴山の足沢の海拔550m」の地点のみ。ヒノキアスナロは越後に分布しないといってもよいほどである。

新潟県は「大倉のアスナロ林」を重要(特定)植物群落として選定した。林は、樹高11mのヒノキアスナロの純林。亜高木層と低木層を欠くが、林床植物はスギ林との共通種が多い。選定理由は「原生林、もしくはそれにちかい自然林」である。

「荻田のヒノキアスナロ林」は選定理由は「過去において人工的に植栽されたことが明かな森林であっても、長期にわたって伐採等の手に入っていない“すぐれた植栽林”として、平成9年(1997)県の重要(特定)植物群落に選定される予定である。」

謝 辞

「西山田の荻田のヒノキアスナロ林」の調査の御案内及び御指導を頂いた佐和田町沢根五十里の加藤政治氏(佐渡森林組合理事)及び新穂村大野の渡部敏文氏(アテビ栽培研究家)に厚く感謝申し上げます。

<1997. 6. 13 記 伊藤 邦男>